

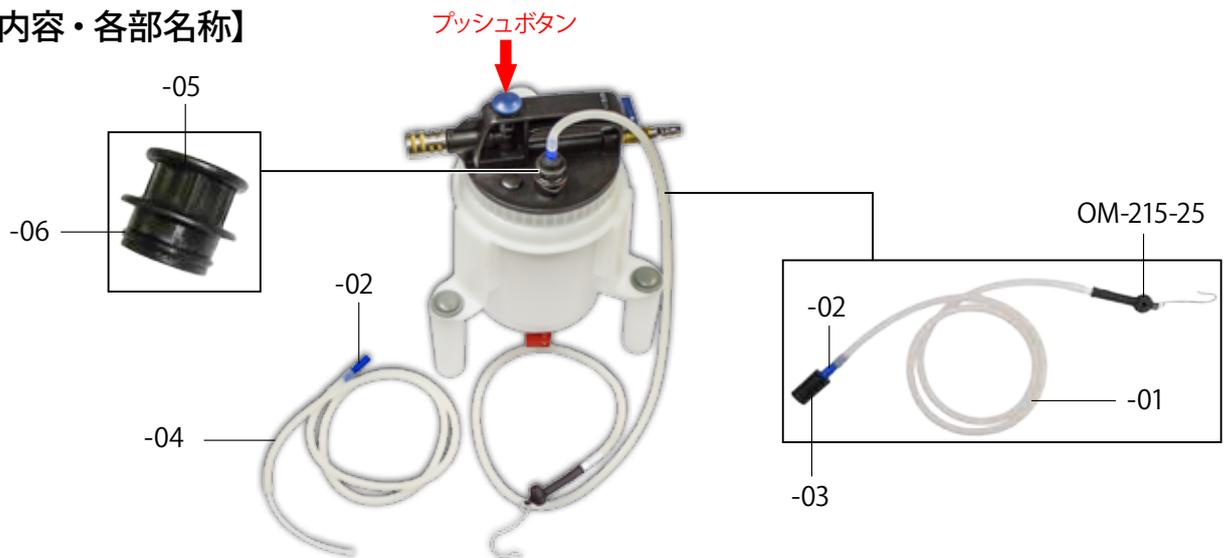

**MODEL : OM380BFT**

## エア式オイルエクストラクター取扱説明書

この度は、**エア式オイルエクストラクター**のお買い上げ誠にありがとうございます。  
ご使用前に内容品の確認と使用時における注意事項を熟読頂き、ご理解の上で使用くださいますようお願い致します。

**【適応】**

ブレーキフルード


**【セット内容・各部名称】**


型 式	名 称	型 式	名 称
OM-215-25	L型ホース口	OM380BFT-04	シリコンホース B (φ 8X4/1.2m)
OM380BFT-01	シリコンホース (φ 8X4/1.1m)	OM380BFT-05	本体キャップ
OM380BFT-02	取り出し口	OM380BFT-06	Oリング
OM380BFT-03	本体接続ジョイント		

**【※使用上の注意※】**

作業車両の整備要領書およびブレーキフルードの注意指示を遵守して、正しく作業して下さい。

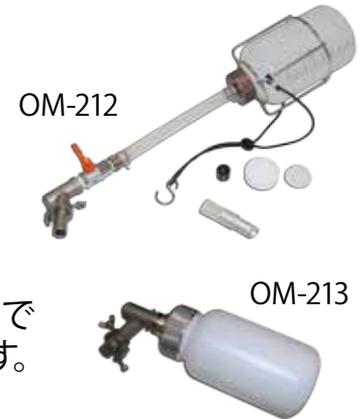
- ・供給エア圧力は、0.7Mpa (7kgf/cm<sup>2</sup>) 以下で使用して下さい。
- ・廃油がタンク一杯まで溜まるとプッシュボタンが作動してエアの供給が止まります。タンク下の排出コックバルブを開いて廃液を処分したのち、プッシュボタンを押すとエアの供給が再開します。
- ・タンクを傾けたり、ゆらして使用しないで下さい。エア排出マフラー部より廃油が吹き出します。(タンク容量は2リットルです。)
- ・ブレーキフルードは、塗装面を傷めます。不測の事態に備えて、周囲を保護して下さい。
- ・本体および吸引チューブ等は高温多湿の場所や直射日光が当たる場所、雨などが直接掛かる場所に保管しないようにして下さい。ゴム部品、ホースは消耗品です。
- ・ご使用後は速やかに本体からフルードの排出を行い、洗浄等を行ってください。

## 使用方法

※使用上の注意事項を先にご確認ください。



バルブを閉じた状態で  
エアー配管（圧力 0.5 ～ 0.7Mpa） を接続します。



リザーバータンク内のフルードが  
空にならないよう、  
自動補給器（品番：OM-212,OM-213）などで  
新品フルードを供給できるように準備します。



ブリーダープラグにホース口を差し込み、1/2 回転程度ゆるめます。

★マスターシリンダーが空の時は、  
予めブレーキペダルを数回踏み込んで、フルードを送り込みます。  
エアー抜き順序および車両個々の注意事項は  
整備要領書に従ってください。



バルブを開き、真空引きを行います。  
数秒間ずつブリーダープラグをゆるめたり締めたりして、  
エアーが消えるまで繰り返します。  
最後にエアー抜き完了を確認します。

★確認の際はバルブを閉じ気味に調整して行います。  
強い負圧で吸引するとキャビテーションによる  
気泡が発生する事があります。



各ホイールシリンダーのエアー抜き完了後  
ブレーキペダルを数回踏み込んで踏みしろが出てくることを  
確認してください。



廃液は、タンク下部のバルブコックを開くことで  
排出することが可能です。

## トラブルシューティング

### いつまで経ってもエアが抜けない・ホース内のエアが消えない場合

- ブリーダープラグから負圧でエア抜きを行う場合、ゆるめたブリーダープラグのネジ部からエアが混入します。
- これは負圧でエア抜きを行う製品すべてに起きる現象ですが、エア抜きが完了しているか見極める方法があります。

1. ある程度フルードを吸い出しても気泡が消えない場合は、ブリーダープラグのネジ部にラバーグリスを塗ってください。

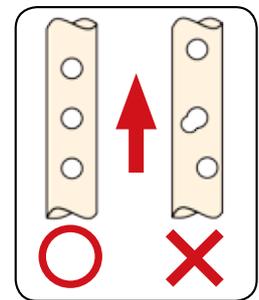
- ⑨ 足で踏む加圧式と異なり、ホース内が負圧になっていると気泡が大きく見えます。
- ⑨ 負圧式の場合、ピストンカップが劣化しているとカップからエアを吸ってしまう事があります。



2. それでも気泡が消えない場合は以下の方法を試します。

- バルブを少し閉じて負圧を弱めます。ホース内の気泡の流れを見てください。
- ホースを軽くつまんでホース内の気泡の流れを見てください。
- 一旦ブリーダープラグを閉め、再度プラグを開けた時のエアの流れを見てください。

気泡の大きさが規則的に流れている場合はエア抜きが完了しています。  
 大小の気泡が不規則に出てくる場合はまだブレーキラインにエアが残っています。



**作業完了後は必ずブレーキ操作により踏み代を出してください。**

その他のトラブルにつきましては以下をご参照ください。

トラブル現象	点検項目	解決方法
フルードが出ない	・負圧を発生させて、吸引ホースを指でふさいでも吸わない。	ホースの亀裂確認 バキュームゲージで確認 (空気圧 0.5Mpa で -66kPa)
	・ブリーダープラグ側が詰まっている	プラグを掃除する プラグを交換する
フルードの出る量が少ない	・車両により配管が長い場合があり、その抵抗で吸引できるフルード量が減少する事がある	車両のブレーキシステムを確認 出にくい場合はペダルを踏む (マスターシリンダーのリターンポートを確認)
	・後輪側と前輪側では吸引量に差が出る	
	・トラック・バン等はプロポーショニングバルブが装備されていて、かなりの抵抗となる	整備要領書を確認
負圧が発生しない	・エア圧力が足りない	0.5 ~ 0.7Mpa のエア圧が必要です。
	・ホースやタンクに亀裂	修理を依頼してください。
	・タンク結合部のパッキンが劣化している	
	・負圧発生装置が破損している	
サイレンサー部(先端)からフルードが噴き出す	・作業中に本体を倒してしまった	ジェネレーター内部に入ったフルードを水ですすぎ、よく乾かしてから再度使用

※修理につきましては販売店から弊社までご依頼ください。